

和白干潟を守る会 2013年度活動報告

和白干潟を守る会事務局

2013年度のまとめ

1988年に「和白干潟を守る会」を発足して、今年4月で26年が経ちます。大切な和白干潟の自然を未来の子どもたちに残すために、自然観察会やクリーン作戦などさまざまな活動をたえず続けてきました。

2013年2月には「たかしマルシェ」で福岡市長が和白干潟を見学してきりえ館で守る会会員と懇談しました。和白干潟のラムサール条約登録を訴えました。4月には日本湿地ネットワーク総会と講演会が和白で開催されて、「和白干潟のラムサール条約登録の早期実現を求める決議」が出されました。6月より和白干潟を守る会で月1回の街頭署名活動を始めました。11月の「第25回和白干潟まつり」では「ラムサール宣言」を採択し、環境大臣や福岡市長、県知事に届けました。

12月には「和白干潟のラムサール条約登録を求める署名」の第1次集計分を福岡市長（6728名分）と環境大臣（6618名分）へ提出しました。しかし国指定和白干潟鳥獣保護区の10年目の見直しでは、11月1日に「国指定和白干潟・多々良川河口鳥獣保護区」として普通地区のまま10年間の継続になりました。ラムサール条約に登録されるためには、国指定鳥獣保護区の「特別保護地区」に指定されなければなりません。

嬉しいことでは、まず「山・川・海の流域会議」の活動が継続できていることです。5月には初めて「唐原川お掃除し隊」として協力して清掃活動ができました。8月には和白干潟の「海底湧水観察会」を開き、海底湧水の存在を知ることができました。酸素を多く含む塩水が湧き出しており和白干潟の海水を浄化しているそうです。人工島開発があっても今でもアサリが多く採れているのは、幸運にも海底湧水があったからだと思われます。活動への企業や学校の支援が増え、「クリーン作戦」への参加が大きく増えました。企業はクリック募金を企画したり、大学は特別講義を企画したり、多彩に協力していただきました。12月には和白干潟を守る会の活動が日本ユネスコ協会連盟により、第5回「プロジェクト未来遺産」に登録されました！昨年度最後のビッグニュースでした。2013年度もすばらしい活動ができたと思います。

今年度も和白干潟を守る活動に、皆さまのご協力をお願いします。和白干潟がぜひ「ラムサール条約登録湿地」となるように希望を持ってがんばりましょう！自然豊かな和白干潟を、みんなの努力で未来の人たちに渡したいと思います。引き続き若い人たちの活動への参加を心から待っています！

和白干潟を守る会 代表 山本廣子

活動方針 1. 和白干潟環境教育プログラムによる「自然観察会」「クリーン作戦と自然観察」、「和白干潟まつり」を通して、多くの市民、特に若い世代や子どもたちに自然の大切さを実感してもらい、自然保護の機運を高める。

1. 和白干潟自然観察会

2013年4月、観察会グループミーティングを行い、5月に観察会の案内状を保育園、小中学校、高校、公民館等へ送付した。観察会の依頼を受けると、事前に下見・打合せを行い、観察会に

来る学校等でパンフレットやビデオを使った事前学習をしてもらった後、観察会を実施した。

2013年度中(1月～12月)の和白干潟自然観察会は、年間12回で、延べ1,023名の参加があった。学校関係からの依頼では、保育園2回(香椎保育所、ちどり保育園・玄海風の子保育園)120名、小学校5回(和白小学校、西戸崎小学校、香椎東小学校)587名、中学校1回(筑陽学園中学)79名、高校1回(柏陵高校)45名、合計10回、857名あった。その他、「和白干潟の海底湧水観察会」、「MS&ADグループ」などの和白干潟の観察会が2回、延べ166名あった。また、和白干潟保全のつどいとして「和白干潟の生きものやハマボウを見る会」を7月に開催し、57名の参加があった。

8月には、和白干潟の海底湧水観察会を行い、和白干潟には海底湧水があり、このことが和白干潟の環境保全に役立っていることがわかった。また、企業から観察会とクリーン作戦を兼ねた申込みなどもあった。

ガイドの固定化と高齢化の問題に対しては、新規入会者の中からガイドやカメラ係を引き受ける者が現れ、若干の進展が見られた。ガイド要員の拡充策として、「和白干潟観察ガイド基礎コース」を作成し、6月に「自然観察ガイド育成講座」を開催し、9名が参加した。

2. 和白干潟の自然観察ガイド講習会

和白干潟の自然の特性を良く理解して観察会の案内が出来るように、6月2日に第16期「和白干潟の自然観察ガイド講習会」を開催し、18名が参加した。

講師：安東 毅 氏：(九州大学名誉教授)

安東先生は、守る会発足当時からご指導いただいております。水質基準の解説から水質とは何か、水多消費文化、化学合成物質の製造・開発など文明も考えていく必要性があることまで幅広く学ぶことができた。

3. 和白干潟クリーン作戦と自然観察(毎月第4土曜日)

毎月第4土曜日午後3時から5時まで、海の広場から唐原川河口、和白4丁目の範囲をその時の状況に合わせて清掃し、同時に自然観察、水質や、砂質調査を実施した。

年間12回、延べ833名が参加し、1826袋のゴミを回収した。定例のクリーン作戦の他に、自然観察会、干潟まつり

年度	活動項目	回数	延べ参加人数(人)	ゴミの量(袋)
2012	クリーン作戦	12	646	2,021
	その他	10	641	652
	合計	22	1,287	2,673
2013	クリーン作戦	12	833	1,826
	その他	7	482	263
	合計	19	1,315	2,089
増加割合		%	102%	78%

や臨時の清掃などに延べ482名が参加し、263袋を回収した。全体では延べ1315名が参加し、2089袋のゴミを回収した。この内、守る会人数は、個人、会場整備、まつり、合わせて延べ207名だった。粗大ゴミは、自転車、タイヤ、浮き、家具類、流木など、様々な物があった。定例のクリーン作戦では、企業や学生の参加が増えたために全体の人数が大幅に増えた。

ゴミの量が少なくなったのは、アオサが春先から発生して真夏にはずっと少なくなったのと北西の風が少なく人工ゴミが一時的に少なかったためと思われる。

総括すると、参加総人数は今年の約1.8倍、ゴミの量は約1割減となっている。(上表参照)

- ・4月27日(土)のクリーン作戦は「干潟を守る日」と「春のビーチクリーンアップ」に参加。
- ・6月1日(日)は「ラブアースクリーンアップ」に参加。

・9月28日(土)のクリーン作戦は「国際ビーチクリーンアップ」に参加しゴミデータ調査を実施。

4. 第25回和白干潟まつり

和白干潟まつりは多くの人に和白干潟の自然を直接見て、体験して干潟の重要性和守っていくことの大切さを認識してもらう目的で、グリーンコープ生協ふくおか福岡東支部と共催し、開催している。四半世紀の節目となる第25回は、11月17日(日)雨のち曇り、強風の中で、土木作業を実施してからの開催となった。天候には恵まれない中でも約400名の参加があった。出店者は18店で、「山・川・海の流域会議」など新規参加も4店あったが、寒さと強風で出店売り上げ、入場カンパなどは予想を下回った。バードウォッチング、植物観察、干潟の生き物観察、ネイチャーゲームをはじめステージ企画のコンサート(合唱、演奏)も気象に対応した方法で実施できた。また、新しく干潟にまつわるクイズも大変好評だった。パネル展も充実してきている。「ラムサール登録を目指す署名」コーナーを設け、取り組んだ。今年もラムサール宣言を採択し、環境省、福岡市、福岡県、環境省福岡事務所に送付した。

出店者との反省会では、天候が厳しい中、出店者も設営作業等に協力していただき、また25年間も続けられたことを評価し、今後も続けていこうと確認できた。当日の運営では開始前の連絡網が十分機能しなかったことから、今後の見直しが必要。

活動方針 2. 和白干潟の大切さと保全の必要性を広く社会に訴えるため、和白干潟を取り巻く自然環境の変化について、干潟及びその周辺の生物の調査、漂着ゴミ調査などの活動を継続し、調査結果を公表する。

5. 調査

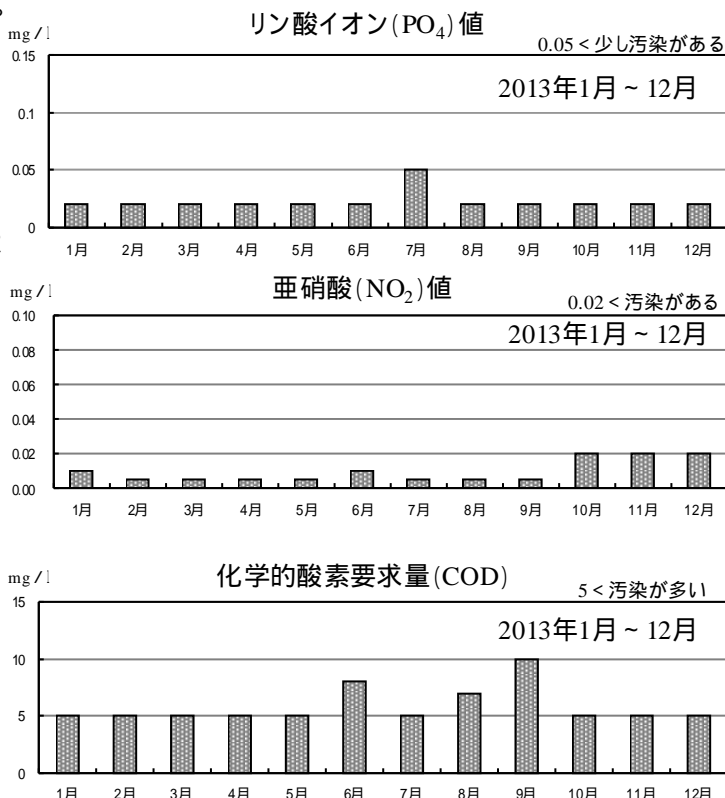
調査項目としては毎月実施する水質調査及び砂質調査、9月の国際ビーチクリーンアップ参加でのゴミ内容調査のほか、水鳥調査などを実施した。

(1) 水質調査(毎月1回実施)

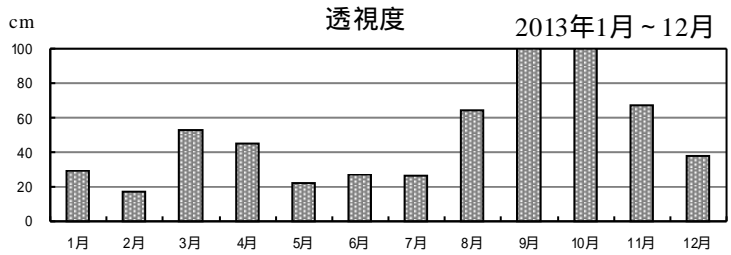
リン酸イオン値(PO_4)が0.05を超えると少し汚染がある状態である。2013年度は7月が高かったものの、その他の月は0.02以下であった。

亜硝酸値(NO_2)は海水の汚染度を表す。2013年度の亜硝酸値は、年間をとおして0.02を越えることがなかった。

化学的酸素要求量(COD)は毎年夏場には悪化する傾向にある。2013年度は6月、8月、9月が5を上回った。



透視度については、通常30cm位であるが、9月、10月は100cmとよい状態だった。

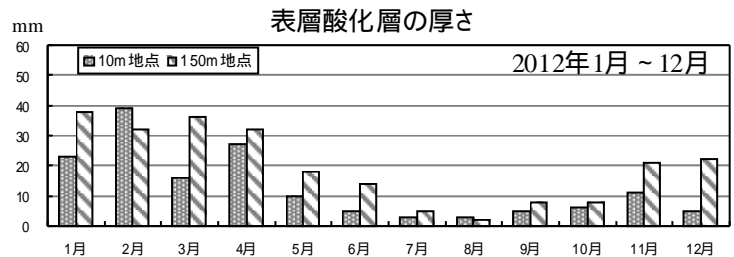


(2) ゴミ内容調査

9月の国際ビーチクリーンアップにて、干潟に漂着したゴミを回収して内容調査を実施した結果、35種類のゴミが回収された。例年のように、食品の包装容器やプラスチック袋などが多かった。

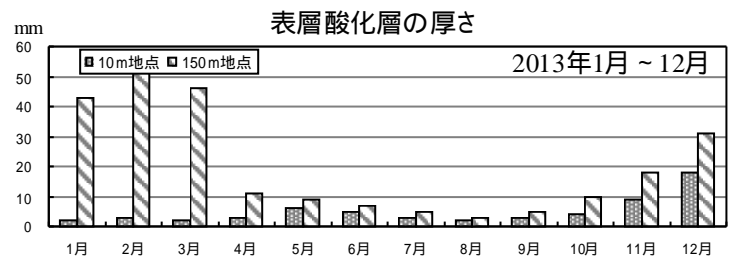
(3) 砂質調査

和白干潟・海の広場前10m地点と150m沖合地点の表層酸化層の厚さと還元層の黒色度を測るものである。表層酸化層が厚いほど干潟が健康な状態にあることを示す。



右のグラフは、2012年度と2013年度の表層酸化層測定結果である。夏場には数mmまで下がり、秋から冬にかけて厚くなる傾向にある。

沖合いの方が厚い傾向にあるが、2012年の秋にアオサが漂着して浜辺に堆積したことで、2012年の11月から2013年の3月まで、浜辺側が極端にうすくなっている。

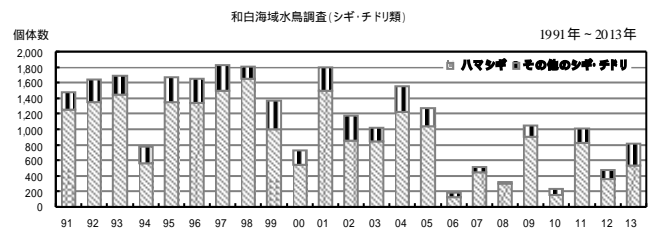
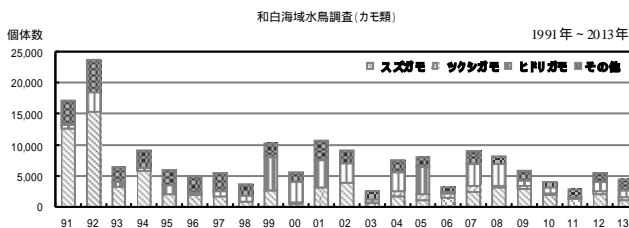


(4) 鳥類調査

鳥類調査では以下の調査に協力した。

1月 和白海域水鳥調査(日本野鳥の会福岡支部・IWRB 国際水禽湿地調査局) 2013年1月13日に実施。

和白海域の水鳥の越冬数(和白海域水鳥調査)は、カモ類は昨年の5511羽より減少し、最多の1992年の23,719羽と比べて約5分の1の4,407羽に減少。シギ・チドリ類は昨年の479羽よりは増加したが、1990年代の約1,600羽から2分の1の814羽に減少した。調査参加者は9名。



環境省モニタリングサイト 1000 シギ・チドリ調査（環境省・NPO 法人バードリサーチ）

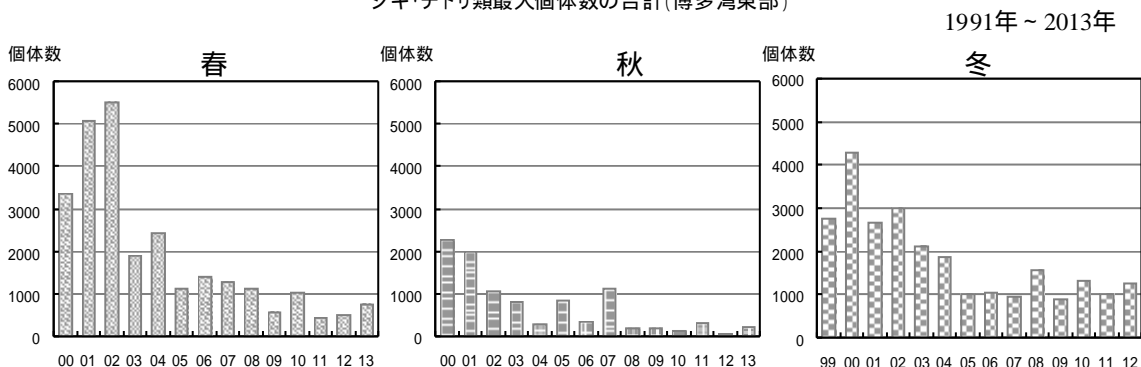
冬期：2012年12月、2013年1～2月今津と博多湾東部各3回実施

春期：2013年4月～5月今津と博多湾東部各3回実施

秋期：2013年8月～9月今津と博多湾東部各3回実施

博多湾東部海域のシギ・チドリ類最大数合計は、2012年度冬期は2000年の4,300羽から1212羽に減少し（昨年1012羽）、2013年春期は2002年の5,509羽から873羽に減少（昨年496羽）、2013年秋期は2000年の2,271羽から209羽に減少した（昨年72羽）。希少種では、冬期にクロツラヘラサギは最大16羽（昨年14羽）、ツクシガモ536羽（昨年492羽）、ズグロカモメ2羽（昨年0羽）をカウントした。

シギ・チドリ類最大個体数の合計(博多湾東部)



今津のシギ・チドリ類最大数合計は、2012年度冬期は2002年の319羽から151羽に減少し（昨年177羽）、2013年春期は2003年の538羽から219羽に減少（昨年110羽）、2013年秋期は2005年の450羽から203羽へ減少（昨年118羽）。希少種では、冬期にクロツラヘラサギは最大25羽（昨年27羽）、ツクシガモ92羽（昨年9羽）、ズグロカモメ10羽（昨年20羽）をカウントした。

シギ・チドリ類最大個体数の合計(今津)



この20年ほどで博多湾東部の鳥類は大きく減少した。今津はやや減少か横ばい状態である。2013年の鳥類調査参加者は、毎回8名から12名、延べ79名が参加。また一斉調査以外にも個人で調査を行った。鳥類調査担当が高齢化などで減少している。調査協力者を求めている。

ミヤコドリは2013年 10/9 に2羽観察（初認）、10/12 に4羽観察、10/24 に7羽、10/25 に8羽、12/16 に10羽を観察した。（2012年は最大11羽観察）

活動方針 3. 貴重な鳥類をはじめとする生物多様性に富む和白干潟を「ラムサール条約登録地」とするための取り組みを強化する。博多湾の自然を壊す人工島などの公共事業には厳しい監視と関心を持って対処する。今ある自然を壊さないこと、壊れた自然は元の自然に戻すことを目指す。

和白干潟の生態系を守るために、山・川・海の流域連携に取り組み、地域の自然再生への取り組みを進める。和白干潟を守る会の活動をより広く知ってもらい、活動への参加者、賛同者を増やすために広報活動を強化する。

6. ラムサール条約登録を目指して

(1) 企画、行事などでのアピール

2013年4月6日日本湿地ネットワーク総会と講演会「日本の湿地を守ろう」が和白地域コミュニティセンターで開催され、総会において和白干潟を守る会から提案した「和白干潟のラムサール条約登録の早期実現を求める決議」が採択された。決議は環境大臣、福岡県知事、福岡市長に送付された。講演会では和白干潟を守る会山本代表の「和白干潟の現況と展望について」報告、「干潟・湿地の重要性と生物多様性について」鹿児島大学佐藤教授の講演、「ラムサール条約入門（和白干潟を条約湿地に指定するとどうなるか）」の釧路公立大学小林教授の講演などがあり、和白干潟の重要性とラムサール条約登録の必要性を強調された。総会には市長からのメッセージも届いた。

4月27日「干潟・湿地を守る日2013」では、和白干潟のラムサール条約登録を求める日本湿地ネットワークの決議を紹介し、宣言に加えた。

11月17日の第25回和白干潟まつりで「ラムサール宣言」を採択し、国、県、市、環境省九州事務所に送付した。和白干潟まつりにも市長メッセージが届いた。

(2) 署名の取り組み

会員個人個人による署名呼びかけ、戸別訪問などのほか、5月より11月まで、毎月第4火曜日を中心に、香椎駅周辺商店街、福岡工業大学前駅前の2箇所を交互に、街頭署名活動に取り組んだ。6回で延べ39名が参加し、計500名分の署名を集めた。また、『和白干潟をラムサール登録地に、和白干潟を守る会』というのぼり及び『守ろう！和白干潟』と記した夏物ベストを作成し、アピールした。第25回和白干潟まつり、クリーン作戦、その他機会あるごとに署名活動を行った。

2012年11月から取り組んだ「ラムサール条約の早期実現を求める署名」第一次集約は福岡市長宛6,728名分、環境大臣宛6,618名分集まり、要望書と共に福岡市に12月17日提出した。12月19日には東京・埼玉在住の会員が代表代理で環境省に提出した。守る会は署名取り組みの主旨について説明し、ラムサール条約登録実現に向けて早急に取り組んでほしいと要望した。福岡市、環境省共に職員が対応した。

(3) その他

12月19日、和白干潟を守る会が応募した日本ユネスコ協会連盟の第5回『プロジェクト未来遺産』への登録が決定した。6月末の応募では、福岡市からの推薦も受けることができ、9月ユネスコ協会審査委員による現地視察と聞き取り調査を経て決定された。「プロジェクト未来遺産」は100年後の子どもたちに地域の文化や自然を伝えていく市民活動を応援する目的で設定されており、第5回は39件の応募から10件のうちの1つとして選ばれた。これまで25年間の環境保全の活動、山・川・海の連携活動などが評価されたもの。2014

年2月20日の登録証伝達式は、公的な認知が広まるまたとない機会となり、ラムサール条約登録実現への大きな力となる。

7月参議院選挙ではネット選挙解禁に伴い、福岡選挙区立候補者に対する公開アンケートを実施し、結果はホームページに掲載し、新聞のコラムにも取り上げられた。和白干潟がラムサール条約登録を目指していることを認識してもらい、応援してもらえるかを問い、6名のうち、3名が応援すると回答があった。応援を回答した当選議員（民主党）と12月面会し、支援の確約をとりつけた。

7. 和白干潟の環境保全を目指して

(1) クリーン作戦の取り組み

昨年に引き続きキヤノンの社会貢献キャンペーンやトヨタの「アクア ソーシャル フェス」の新聞広告、キヤノクリック募金の対象に選ばれるなどで、和白干潟の知名度が上がり、企業、高校生、大学生、民間ボランティアグループ等の団体参加が増え、前年度より102%の参加者増となっている。10月から、大学からの要請により、希望する大学生には「ボランティア参加証」を発行することとなった。次年度から参加を希望する団体の申し込みもあっている。今年もアオサが昨年度よりは少なかったものの、大量発生した。特に、11月の和白干潟まつり以降12月まで堆積していた。企業、高校生、大学生が参加したクリーン作戦では若い方々や高校生などの力が大いに役立った。また、損保ジャパン、MS&ADなど独自の日程でクリーン作戦と組み合わせて自然観察会などの企画が継続されている。

(2) 国、福岡市等の施策に対する取り組み

2月14日には、高島福岡市長の市民との対話集会『たかしマルシェ』の募集に和白干潟を守る会が応募、当選し、市長との対話集会、和白干潟視察が実現した。その場でラムサール条約実現への回答は得られなかったが、市長として実際の干潟を見学し、重要性を理解してもらえたことは一歩前進と言える。

9月4日環境省の「国指定和白干潟・多々良川河口鳥獣保護区指定」について公聴会が開かれ、和白干潟を守る会山本代表が、公述人として意見を述べた。守る会は和白干潟の鳥獣保護区の継続は賛成したが、強く望んだ特別保護区への昇格は、福岡市の更なる開発や公共事業を規制されることへの反対があったため今後の課題として見送られた。公聴会を前に鳥獣保護区についての縦覧に守る会も参加、8名が意見書を提出し、公聴会もマスコミに取材要請し、5名傍聴した。また、事前の6月には地元懇談会の資料を基に環境省福岡事務所に質問状を出し、回答をもらった。

(3) 福岡市との環境関係の協議、連携について

「エコパークゾーン水域利用連絡会議」では、7月28日、海上安全指導パトロールに参加し、指導と実態の難しさを実感した。8月2日の定期協議ではウェイクボードの走行規制について、走行を見かけたら港湾局理財課に連絡すること、アサリの業者採取禁止、などについて意見交換した。

「和白干潟保全のつどい」では毎月1回の定例会に担当の2～5人が参加、活動報告や意見交換、つどいとしての「バードウォッチングイン和白干潟」「和白干潟の生き物やハマボウを見る会」「アオサのお掃除大作戦2013」などのイベントを共催した。「アオサの

お掃除大作戦」については実施時期、かかわり方などについて見直しを求めていたが、今年度は真夏の酷暑を避け、9月から10月までの3回に変更して実施し、好評だった。昨年度より和白干潟の生態系の見える化」について意見交換していたリーフレット『和白干潟のアオサをもっと知ろう』が完成し、市民にアオサについての理解を深めてもらうのに役立っている。和白干潟まつりのパネル展示にも参加した。

これまでラブアースクリーンアップ本部が主催していた「ラブアースクリーンアップ」を福岡市環境局が主催することとなり、「ラブアースクリーンアップ2013」として開催され、6月16日和白干潟でも守る会が主体となって実施した。JA 東部、城東高校生、さくら日本語学院生（ベトナム留学生）など参加者285人で、126袋のゴミを回収した。

(4) 和白干潟を守る会の学習会開催

8月18日和白干潟の「海底湧水観察会」を実施した。5月NHKTVで和白干潟には海底湧水があり、海水を浄化しているとの情報から、研究者の新井先生を講師に現地観察会と講義を行っていただいた。和白干潟の漥の下には地下海水の堆積層があり、干潟の海水浄化に大きな役割を果たしていることがわかった。和白干潟にとって画期的な発見であり、全国にも同様な箇所はあるが、公共工事で消滅の危機にあることなども学んだ。今後、和白干潟を語っていく上で、湧水があることの意義をしっかりと伝えていく必要がある。

(5) 和白干潟における民間工事への説明

8月和白干潟東部にあるRKB鉄塔改修工事に関して、工事業者が説明に来訪し、ハクセンシオマネキなどの生息地に近いことなどから環境配慮を要請、現地説明も行った。影響は出なかった。

8. 広報の強化について

(1) 和白干潟通信・リーフレット類

和白干潟通信は1・4・7・10月に計4回各5000部発行した。105号は25周年記念として1面と8面をカラー印刷にした。干潟通信は（公財）イオン環境財団の助成を受けてロータリー印刷（株）で作成した。配布先は、会員、マスコミ、行政関係、和白干潟の地域家庭、クリーン作戦、自然観察会参加者など。発送作業はみんなで行っている。配布ボランティアの高齢化もあり、配り手の確保が課題となっている。

和白干潟通信、リーフレット類は東区内公民館、臨海リサイクルプラザ、郵便局、周辺大学、パタゴニア福岡店、亀の井ホテル、喫茶「ほっと」、藍の家、薬局、画材店などに置いてもらっている。

和白干潟を守る会20年誌「未来につなごう和白干潟」改訂版を200部増刷した。

「クリーン作戦と自然観察」のお知らせポスターは、東区役所、東市民センター、コミセンわじろ、公民館、郵便局、ホームセンターほか周辺大学（福岡工業大学、九州産業大学、福岡女子大学）にも掲示を依頼している。

(2) 和白干潟を守る会ホームページ

ホームページは4名の分担で、編集している。活動報告をブログに掲載、年間を通じ、守る会の行事予定や和白干潟の生き物などに関する情報を随時、写真も豊富に更新し発信している。7月の参院選では地方区候補者への公開アンケート結果を掲載した。6月にはパソコンのリモートサポート契約

を結んだ。

(3) イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」に参加

「幸せの黄色いレシートキャンペーン」に参加して6年目となった。イオングループが全国的に実施しているキャンペーンで、環境や福祉などのボランティア団体を支援するため毎月11日に買い物したときの黄色いレシートを団体のボックスに投ずると、その1%相当額のカードがイオンから団体に寄贈されるという仕組みである。2013年度は、4月から2014年2月まで、イオン香椎浜店とホームワイド和白店で黄色いレシートの投函呼びかけを実施した。5月からは、1団体1店舗に限定されたため、香椎浜店のみとした。毎月2~4人が参加しており、延べ48人が参加した。呼びかけの時、たすきや守る会のラムサールキャンペンブルゾンを着用し、干潟通信とリーフレット、和白干潟まつりのチラシ等を渡している。4月にはそれぞれの店舗で2012年度分の贈呈式があり、ギフト券をいただいた。

9. 講演活動

7月13日糸島市「はまぼう夢まつり」において、山本代表が「和白干潟をラムサール登録湿地に！」と題して講演を行った。交流のある「泉川はまぼうの会」からの要請によるもので、150名の参加があった。

10月4日香住丘小学校5年生児童と担任の先生対象に、和白干潟についての講演を行った。

10月6日福岡市南区高宮アミカス「モーニングコンサート&トーク」において、山本代表がマリンバの演奏とのコラボレーションで和白干潟の自然をきりえとトークで紹介した。会員の依頼で実現し、60名の参加があった。

11月9日九州産業大学経済学部(行政学:宗像ゼミ)において、山本代表が「和白干潟はみんなの宝(和白干潟の自然と環境保全活動)」と題して特別講義を行った。和白干潟のクリーン作戦に熱心に参加されていたことから要請を受けたもので、一般参加もあり70名が聴講した。

10. 情報の発信：新聞や雑誌、他団体の会報等に活動予定や鳥情報、和白干潟の紹介を発信

- ・(財)日本自然保護協会(NACS-J)に年間スケジュール表送付、「自然保護」誌に「和白干潟のクリーン作戦と自然観察」、「ガイド講習会」、「和白干潟まつり」の掲載を依頼した。
- ・自然関係4誌に、「和白干潟自然観察ガイド講習会」、「和白干潟まつり」の案内掲載を依頼した。
- ・日本湿地ネットワーク総会と講演会の情報発信、毎日新聞社が取材。
- ・グローバルボイスに和白干潟や守る会の活動、きりえなどの掲載を承諾した。
- ・くすだひろこきりえ展「和白干潟の息吹」(レストラン花もも5/7~5/31)を開催し、パンフレットや通信を配布した。きりえ展は新聞社の取材もあり、記事として掲載された。
- ・和白地域コミュニティセンター(通称コミセンわじろ)の情報紙「WAJICO」の5月創刊号冒頭に、和白干潟を守る会が地元のボランティア団体として掲載された。
- ・参議院選挙福岡選挙区候補者への公開アンケートをHP掲載し、朝日新聞コラムに掲載された。
- ・JAWAN通信に山本代表が原稿執筆。
- ・海底湧水観察会をマスコミ各社に情報発信。NHKTV、毎日、西日本新聞が取材、掲載。
- ・第25回和白干潟まつりについて各新聞社へお知らせし、2社が取材、1社が掲載。
- ・ミヤコドリ、クロツラヘラサギの飛来について新聞各社に情報提供。

- ・福岡市へのラムサール署名提出について市政記者クラブへ取材要請、3紙に掲載された。
- ・日本ユネスコ協会連盟の「第5回未来遺産」に和白干潟を守る会が登録決定したことについて新聞各社にプレスリリースし、3社が掲載。

1 1 . 取材協力：新聞社、テレビ局、雑誌などからの取材に協力

- ・西日本新聞社ラムサール登録手続き及び和白干潟の保全活動についての取材に協力。
- ・MS&ADのラムサールサポーターのHPに写真と記事で協力。
- ・日本河川協会HPの情報更新。
- ・西鉄ニュースの和白干潟紹介文の点検。
- ・動画「こんね！TV」ポータルサイトで山本代表のインタビュー協力。
- ・UR情報誌「あおぞら」の私にもできるボランティア活動紹介に山本代表執筆。
- ・海洋政策研究財団「Ocean Newsletter」に山本代表執筆。
- ・西日本新聞社発刊予定の「博多雑学」に「野鳥の聖域和白干潟」を山本代表執筆。
- ・エフエム福岡「エコファイル」番組で守る会紹介への取材協力。
- ・未来遺産登録についての朝日新聞社取材に協力。

1 2 . 対外団体との交流活動、協力・参加活動

(1) 和白海岸定例探鳥会 毎月1回日本野鳥の会福岡支部に協力。

(2) JAWAN・JEAN との連携

- ・JAWAN「干潟を守る日2013」参加：4月のクリーン作戦と併せて実施。2014年宣言を出した。
- ・JAWAN 総会：和白干潟を守る会が中心となって福岡市で開催。昨年に続き、山本代表が運営委員に。「和白干潟のラムサール条約登録の早期実現を求める決議」が採択された。講演会、和白干潟見学も行われた。和白で開催されたことにより、和白干潟の重要性を全国に知らしめた。
- ・JEAN「国際ビーチクリーンアップ(春・秋)」に参加

(3) 「山・川・海の流域会議」との連携について

和白干潟の集水域の生態系を守るため、唐原川の流域、立花山などの自然保護、環境保全に取り組む6団体と連携し、2012年7月発足した「山・川・海の流域会議」は、初めて、5月18日「唐原川お掃除し隊」を実施した。上流、中流、下流に分け各団体が分担し、93名が参加、ゴミ94袋を回収した。今後も毎年実施する。11月30日には流域会議主催で、「唐原川の源流探検」を実施。また、相互の団体の情報共有化を図り、学習会の開催、各団体行事への参加、和白干潟まつりへの出店、パネル展示など活動できた。流域会議の活動を通して地域全体の自然を守り、再生の道を探る方向性が確信できた。ユネスコ未来遺産プロジェクトでもこの活動への広がりを評価されている。

(4) グリーンコープ生協との連携

第25回和白干潟まつりの共催

(5) 福岡市ボランティア交流センター「あすみん」との連携

3月「地域とNPOの交流会」、「企業とNPOの交流会」に参加し、説明を行った。5月には「ボランティア入門講座」にも参加し、守る会の活動への参加を促している。

(6) その他の団体、個人との交流と協力

- ・東日本大震災で壊滅的被害を受けた「蒲生を守る会」と交流を継続。干潟まつりで蒲生干潟の現在の状況についてパネル展示をした。ラムサール署名活動においても多数のご協力をいただいた。
- ・ アメリカのシアトル在住のチャックペルご夫妻和白干潟来訪、案内。
- ・ 天草のハマボウを守る会桂木夫妻ほかの来訪、案内。

13. 「和白干潟を守る会」の運営に関して

(1) 定例会議・総会(毎月第4土曜日)

原則第4土曜日に、守る会事務所で「定例会議」を12回開催。そのうち2月は「総会」として開催した。出席者は各回13～19名。平均15名出席し、総会で活動方針を決めるほか、会の活動に関する報告、予定を共有し、重要な事項は定例会議で検討し、決定した。事務局会議を必要に応じて開催した。

(2) 助成

イオン環境財団から助成金をいただいた。

キャンソマーケティングJから助成金をいただいた。

(3) 寄付

イオン九州(株)から「幸せの黄色いレシートキャンペーン」によりギフト券を寄付いただいた。

キャンソマーケティングJから「ふるさとプロジェクト活動支援金(クリック募金)」、寄付つきドリンク自販機を通じた寄付をいただいた。

MS&ADグループから寄付をいただいた。

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社からWeb約款寄付いただいた。

西日本新聞社から、トヨタグループとのAQUA SOCIAL FES 2013の取り組みで寄付をいただいた。

SAVE JAPANプロジェクトでふくおかNPOセンター(損保ジャパン)から寄付をいただいた。

会員や一般市民、観察会、干潟まつり、望年会オークション等でカンパを受けた。

(4) 2013年度の新規会員

- ・個人 8名
- ・団体 1団体

(5) 2013年度末の会員数(新規会員を含む)

- ・個人会員: 261名
- ・団体会員: 11団体

14. パンフレット類の在庫

2013年度末のパンフレット類の在庫数は、概略次の通り。

・「和白干潟を守る会」リーフレット	7,520	
・和白干潟の自然案内(和文)	1,593	次年度印刷
・和白干潟の自然案内(英文)	528	
・環境教育シリーズ(環境教育プログラム)	6,286	
・環境教育シリーズ(水鳥、底生動物、植物図鑑)(和文)	2,691	

・環境教育シリーズ（英文）	361	
・環境教育シリーズ（韓文）	80	
・和白干潟観察マップ・年間スケジュール表	31	毎年印刷
・「和白干潟を守る会」封筒	5,500	
・「ラムサール条約と和白干潟」	293	
・「未来につなごう和白干潟～和白干潟を守る会20年のあゆみ」	84	

15. その他

海ノ中道海浜公園委託の鳥類調査に協力(毎月1回)

危機管理体制の設置:1月、キャンオン MJ の連携プログラム継続に関して「ボランティアプログラム実施中に事故や怪我等が発生した場合の対応について」確認書を取り交わした。全体統括責任者として山本代表、救護担当としてクリーン作戦担当の田辺、全体統括補佐と連絡担当として山之内の役割分担を決めた。

7/23 消防局より講師を招き、守る会事務所で救急講習会を開催し、12名が参加。観察会、クリーン作戦などの野外活動参加者への対応、会員の高齢化への対応などから企画した。

望年会参加者 19名(12/23)・大掃除参加者10名(12/24)